

## 第3回岐阜県教員育成協議会の報告について

### 1 開催日時・場所

平成29年12月7日（木）10:00～11:40

県総合教育センター 2棟1階第2研修室

### 2 委員から出された主な意見

#### (1) 基礎形成期の教員研修について

- 一定の受講回数を設けた選択制度を導入することに賛成である。管理職との面談を通して、先生たちが主体的に課題を解決していく自己決定が大切である。一方、研修の履歴をどう残していくかは課題である。
- 若い先生のニーズに対して何を用意するかが重要である。若い先生たちが、自主研修に取り組む学校もあるので、今日的な教育課題や教師個々や学校ごとに異なる困り感に焦点を当てた研修を増やしてほしい。
- 研修には、センターで実施するものの他、教育研究会が行うものや、長期派遣研修など、様々なものがある。こうした研修の活用も考える必要がある。
- 管理職との信頼関係のもとで、基礎形成期によい経験をした教員は自ら課題を見つけ育っていく。初任者にとっても常勤講師にとっても、基礎形成期の経験が大切である。

#### (2) 中堅教員の研修について

- センターで受講するという発想だけでなく、研究授業や実践論文を教育委員会が評価し該当者へ還元することも考えてはどうか。よいことはどんどん自分で研鑽するというメッセージを送ればよい。
- 今後、管理職になるのか、教科指導等の専門家になるのか、複線型の研修モデルを示す必要がある。
- 中堅教員は経験則にとらわれがちで、古い経験がかえって邪魔になることがある。考え方をリセットできる機会として、むしろ教員でない外部講師をもっと活用するとよい。
- テレビ会議システムでの講義形式の研修は有効である。だからこそ、テレビ会議を用いない参加型研修は、生身の人間が向き合うことでやりがいにつながるような研修にしたい。